

「子育て環境の確保」、「地域の再生エネルギー利用の推進」の項目が追加されており、幅広く過疎対策等の取組みに活用していただけるものと考えています。
計画期間は令和3年4月1日から令和8年3月31日までとしています。

◆藤里町定住化促進住宅

本事業におきましては、町内の若い世代の流出抑制と、住居がないということや町外に流出してしまった町民の取り戻し、及び移住者等に対応するための施策として、昨年度に第1期計画としてアパート型の住宅を2棟整備しています。

第1期の住宅整備では、県外・町外から13人が転入されてきています。

現在、首都圏等にお住まいのお子さんのいるご家族からの移住相談も数件あり、また町内事業所に町外から通勤されている方からのご相談もいただいているところですので。

空き家バンクの活用を含めて、住宅に困っている町民の方、Iターン者やUターン者などに対応できる住宅を整備し、人口減少対策に取り組んでいきたいと思えます。

◆稲作の作柄状況ほか農業関係

稲作関係について、8月20日現在における能代山本地域の水稲の生育状況は、 m^2 当り穂数は454本で、平年比101%と平年並みとなっています。1穂当たりの着粒数は79.3粒、平年比106%、

m^2 当りの着粒数は3万6千30粒、平年比108%で、双方の昨年度の着粒数の平年比がともに103%であるのに対してそれぞれ3%と5%の増となっています。
なお、東北農政局発表、8月15日現在における秋田県の作柄概況によりますと、「平年並み」と見込みまれています。

今年の米の概算払金額は、9月10日に開催される全県JA組合長会議で決定されますが、JAあきた白神独自の加算金も含めた金額は、今後検討のうえ決定されることと見込んでいます。

次に、今年で12年目を迎えたリンドウは、栽培面積381.3a（内採花面積336.3a）で、8月14日までの販売においては、出荷本数192、400本、販売額8,231千円で、昨年同期と比較し、本数では110、210本減、販売額で3,373千円減と大きく下回っており、さらに、コロナ禍での需要低迷が追い打ちをかけ、生産者にとって大きな打撃となっています。

出荷本数の大幅減の要因としては、6月から7月にかけての少雨、高温により、生育が早まったことに加え、花段数が1〜2段少なくなったことで、市場出荷の品質とならないものが多かったことによります。

現在は、秋彼岸に向けて栽培管理をしていますが、これも6、7月の天候不順からくる品質低下に加え、コロナ禍の影響による需要の減少や価格の低迷も考えられることから、栽培農家への管理指導を徹底していきます。

次に、矢坂上野地区のサテライト団地

整備事業であります。8月20日には出荷処理施設、機械が完成し、8月28日には白神ネギの初出荷に至っています。天候による病害や、強風による倒伏も心配されましたが、栽培者の適切な管理により順調な生育を見せており、年内には30アール分の白神ネギの出荷が完了する予定です。

次に、白神ラムの飼育状況についてですが、今年の出生子羊123頭のうち、ラム肉用を60頭、ホグット向け20頭として、40頭を繁殖育成と来年度のホグット用に向けた予定と見込んでいます。昨年引き続き、コロナ禍により首都圏での消費そのものが大幅に減少することもありうることから、出荷については柔軟な体制をもって町内消費並びに新規取引等を検討しながら対応していきたいと考えています。

今年度、当町に定住し、夢プラン等の事業を活用して綿羊飼育を計画していた新規就農者については、現在大野岱放牧場の一部を町から借受け、面積117.2 m^2 の仮畜舎（単管パイプ造）を建設し、42頭（夢プラン対応は35頭）の綿羊を導入して飼育を開始しています。

また、本畜舎建設予定である、大野岱放牧場内にある町有原野については、敷地内の立木を伐倒、伐根した後、盛土材の運搬整地にかかる計画と見込んでいますが、大野岱放牧場内町営施設全体で使用している飲料水、家畜用飲用水、及びトイレ水洗用水、畜舎清掃用水、その他雑用水において、現在稼働している井戸2機の揚水量が、今夏の小雨、渇水の影響もあり非常に心許ない状況です。

今後、新規就農者の綿羊畜舎が建設され、導入予定の綿羊300頭が全て揃うとなれば、揚水の絶対量が不足することは必至であり、新しい水脈を水源とする井戸が必要となることから、早急に水脈調査を含めた新井戸建設及び活用の配管工事について予算措置を講じる必要があります。調査費、建設工事費については、現在試算をすべく調査をしています。

次に、鳥獣被害対策についてですが、昨年、ニホンザルによる被害が多発した大屋布地区では、耕作地全体を電気柵で囲う被害防止策を講じていますが、設置初年度であることから、完全な防御とはなっていないようです。

ニホンザルの被害は、お盆前から現在まで町内各所で発生はしていますが、現在14ヶ所の箱ワナを設置しているほか、7月1日からは、猟友会による平日の巡視を実施しており、ニホンザル、ツキノワグマの出没においては、爆竹や銃器の空砲による追い上げ、箱ワナ設置等の対応は迅速で、農作物被害の減少に期待しているところと見込んでいます。ニホンザルについては、大沢地区において2頭を捕獲しています。

ツキノワグマ被害については、8月7日に大沢館の下地区の民家裏のトウモロコシに被害があり、市街地出沒マニユールの監視警戒レベルに相当することから、警察署、振興局、猟友会への連絡、防災無線での地区住民への注意喚起、警察と猟友会による付近の巡視を実施しています。現段階でツキノワグマ捕獲用の箱ワナは、町内全域に6ヶ所設置しており、